

2. 厨芥による乳牛の 肉利用

1. 調査農家

調査農家は西多摩郡羽村町のO氏である。

O氏は永年養豚に従事していたが、伝染病の発生により大きな被害をうけたので、養豚を全面的にやめて、厨芥利用による乳牛の肥育を行なうこととした。

飼育管理上従事するものは経営主の妻と長男の2名である。

2. 肥育の実態

(1) 畜舎

牛舎は豚舎を改造した対頭式で、牛房は、間口136cm、奥行365cmで1頭ずつのつなぎ式で52の牛房がある。

(2) 肥育素牛

肥育を開始した頃は、生後約1年たったホルスタインの雌牛であったが、最近では雌牛の価格が高くなったので、雌6に対し去勢雄4の割合になっている。

(3) 飼料の給与方法

(イ) 厨芥

A市の一般家庭から収集した厨芥で、1日に1.75屯の厨芥収集車で2台運ばれてくる。運ばれた厨芥は、30分位水分をきって、生のまま給与している。特に選別は行なっていないが、竹の串とビニールは取り除いている。

(ロ) 給与方法

市場から導入してすぐに厨芥を与える。厨芥に食いつかない牛に対しても、他の配合飼料は全然与えず、少量の藁と厨芥と飲水を与えて食いつくまで待つ、大体1週間から2週間たつと食い込んでくる。給餌は1日2回で、1日に、直径4-5cm、深さ3-5cmの「かご」に1杯ずつ与える。飲水は全然与えない。

(4) 飼育労働時間

飼育頭数56頭、管理者2名で、1日の労働時間は、給餌1時間、掃除1時間20分、合計2時間20分であった。

(5) 糞尿の処理

糞尿は溜の中に入れておいて、業者のバキュームカーで汲み取る。

汲取料は、1台850円で、1ヶ月に20台位である。

(6) 発育成績

導入月日の明らかな8頭の牛について、4月から1ヶ月目毎に体重推定尺により測定した。

第 1 表 発 育 成 績

動物 番	導入月日	4月1日	5月1日	6月1日	7月1日	8月1日	9月1日
1	42年 1月	292Kg	303Kg	336Kg	348Kg	360Kg	366Kg
2	"	342	348	366	398	424	453
3	"	308	319	342	366	398	428
4	"	297	308	331	354	366	398
5	"	303	325	349	371	391	404
6	41年11月	385	391	424	468	452	466
7	42年 4月	336	331	354	368	398	418
8	"	293	303	314	342	354	376

動物 番	導入月日	10月1日	11月1日	12月1日	1月7日	2月1日	1日平均 増 体 重
1	42年 1月	379Kg	388Kg	411Kg	434Kg	456Kg	535g
2	"						725
3	"	445	464				728
4	"	418	449	459	472		620
5	"	431	436	456	479		624
6	41年11月						529
7	42年 4月	438	464				621
8	"	391	421	445	471		649

番7.8は4月9日導入 番2は102日切迫屠殺

即ち、300Kg前後から450~500Kgになるまでの1日平均増体重は、最少529g、最大725g、平均629gで、個体によりかなり差があった。参考までに、ホルスタイン種牛標準発育平均値と比較すると、平均値では、体重308Kgから495Kgに達するまでの1日平均増体重は775gだから、飼料利用の場合は、その約80%に相当する。

(7) 事故

事故の原因で一番多いのは、消化器系統の病気で、特に、竹の串やビニール袋をのみこんでおきる事故が多い。

42年中は、52頭出荷して、その中の14頭が事故牛で、全体の26%に相当する。事故牛は導入後間もない牛に多いので、出荷しても素牛代にもならず、大きな損失となる。飼芥の選別を念入りに行なう必要がある。

3. 肥育の経済性

42年度中に出荷した牛の明細を示すと第2表のとおりであった。差引金額がマイナスになっているのは、事故牛である。

第2表 月別の牛の販売状況

月日	頭数	売上代金	素牛代	差引
1.20	1	126,000	88,700	37,300
2. 2	2	343,200	184,000	159,200
2.15	1	41,500	95,100	-53,600
2.18	1	25,000	94,000	-69,000
2.21	1	107,250	86,500	20,750
3.31	3	478,500	259,000	219,500
5.21	3	411,500	284,000	127,500
6.16	4	592,500	396,600	195,900
7. 4	1	45,000	83,500	-38,500
7.15	2	244,760	172,800	71,960
7.27	1	48,500	89,000	-40,500
8. 7	6	976,200	575,600	400,600
8.14	2	314,370	169,500	144,870
8.24	3	479,000	267,100	211,900
8.28	1	38,000	80,000	-42,000
9. 7	2	337,000	180,000	157,000
9.10	3	487,000	252,100	234,900
9.29	1	68,000	84,400	-16,400
10. 3	1	128,900	84,400	44,500
10. 7	1	43,200	89,400	-46,200
10.11	1	68,000	89,000	-21,000
10.23	1	55,000	81,000	-26,000
11. 6	1	61,500	112,000	-50,500
11.20	2	326,000	206,300	119,700
11.28	1	102,000	80,000	22,000
12.11	2	321,000	155,000	166,000
12.16	2	332,500	176,100	156,400
12.21	1	40,000	90,000	-50,000
12.28	1	48,000	94,000	-46,000
合計	52	6,689,380	4,699,300	1,990,080
平均		128,642	90,370	38,270

枝肉重量は、最少210Kg、最大288Kgであった。枝肉単価は、中央御売市場乳牛の、中と上の中間の値であった。

つきに42年1月から12月までの収入 支出を示すと第3表のとおりであった。

第3表 収 支 計 算

項 目	金 額	割 合	備 考
肉牛販売収入	6,689,380円	100%	肉牛52頭分
その他	0	0	
収入合計	6,689,380	100	
飼料費	467,810	8.12	大麦その他濃厚飼料
わら	93,930	1.6	
飼料運賃	147,000	2.5	厨芥運搬の謝礼
素牛代	4,699,300	81.1	52頭分
糞尿汲取代	229,500	3.95	850円×270
〃拾場代	13,500	0.23	50円×270
消耗品代	70,340	1.2	
ガソリン代	49,028	0.8	
畜舎補修費	31,400	0.5	
支出合計	5,801,808	100	
差 益	887,572		
1頭当りの差益	17,068		
1日当りの所得	2,431		
1日1頭当りの所得	46		

4. まとめ

畜産経営全般についていえることであるが、経費の中で最も大きな部分を占める飼料費をいかに軽減するかが、経営を有利に導く方法といえる。特に肉畜の場合は、その影響が大きい。その飼料を殆んど無料に近い厨芥を利用して、乳牛を肥育するということは、誰もがどこでもできる経営とはいえないが、都市近郊の有利性をたくみに生かした経営といえる。

しかし、厨芥という腐敗し易いものだけを飼料として利用するのであるから、事故も起き易く、いろいろの問題点がある。

(1)素牛の大きさ

経費の中で、一番大きな部分を占めている素牛費を引下げするには、体重の小さい素牛を導入するより方法はないが、厨芥利用に関する牛の生理的な面については殆んど不明である。したがっていろいろの段階別の肥育について、生理的、経済的の両面から、比較検討する必要がある。

(2)事故

事故による損失は、非常に大きい。その原因は、厨芥の中に含まれる竹串やビニールによると考えられるものが多い。管理にもっと金と時間をかけて、厨芥の選別を念入りに行なえば事故も防げて、もっと成績が向上するだろう。

(3)環境衛生上の問題

腐敗し易く、悪臭を放つ厨芥を大量に利用するのであるから、その取り扱いについては充分注意して、環境衛生上の問題を起さないようにしなければならない。